

JFW JAPAN CREATION 2008 Autumn/Winter

12/5-7
東京ビックサイト

ジャパン・クリエーションの名称が「JFW ジャパン・クリエーション (JFW-JC)」に変更しました。
アジア最高のテキスタイル展を目指し、今、あらゆるデザイン分野で「日本のもの作り」への注目が集まっている現状を踏まえ、この追風によって、高感度な「ジャパンクオリティ」を世界に発信し、質の高さを追求したファッションビジネスの場を展示会場に構築。また、プルミエール・ヴィジョンなどのように、JCもバイヤーのために開かれるのであるという視点から、商談のコーナーを更に充実し、ビジネスと結びついた展示会の内容になっておりました。

会場の入口に大きなスペースをとったトレンド・インデックスコーナーとコンセプト素材展示会場



三河繊維産業商品開発研究会
TDAメンバーによる三河地区6社の展示ブース。
ディレクター 山氏 (各企業企画者 今野氏、中谷氏、大場氏)



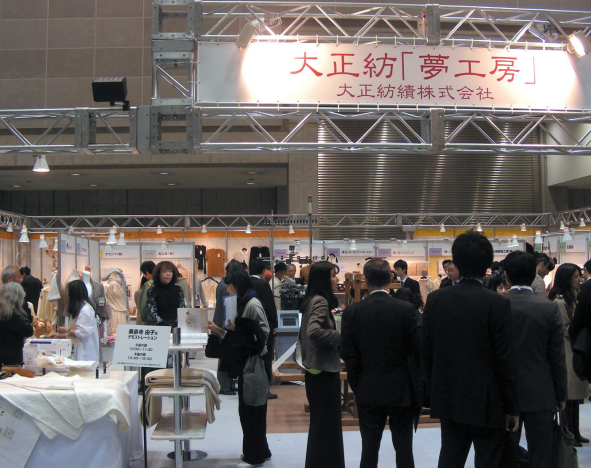
テキスタイルコンテスト
今回の応募点数 (292名/423点)
グランプリ1点、優秀賞2点、新人賞1点、部門賞8点



商談の場となる「バイヤーズ・セレクト・コーナー」
JFW-JC展示会が力を注いだ会場



大正紡「夢工房」のブース
今回も多数の来場者を引きつけていました。大正紡の糸を使った
テキスタイルや二次製品を企業ごとに展示、説明していました。



産学コラボレーション事業企画
フォルム・プレゼンテーション BY Tex-Promotion
クリエイティブなデザイン発想力を持つ人材を輩出する
為に学生を対象とした応募形式での展示会場です。



東京モード学園 生地協力：天池合織 (株)、宇仁織機 (株)

韓日交流「包む布」展
2007 9/11～9/22 (ふろしき展巡回展 in 釜山) 報告

■会場：韓国釜山, Craft Story(ギャラリー)
570-39 3F Bumil-dong Dong-gu, Busan 601-060, KOREA

オープニング：9/11, 18:00～
韓国の出品作家を含む約30名弱の来場者。ギャラリーのオーナー金さんより開催の挨拶とTDAは私、大高と野々口理事補佐の紹介。私、大高から挨拶にて、この展覧会の意義と趣旨を述べる。そのあと観覧者との交流をはかりました。

ワークショップ：18:30～19:00
まず私による日本の「ふろしき」の歴史・大きさについてレクチャー。そしてふろしきの包み方の実演として、最初に野々口理事補佐による平包み、お使い包み、隠し包み、巻き包みを披露、その後私が、びん包み、ワイン包み、本包み、スイカ包み、ふたつ包み、エコバッグ包みなどの包み方を披露しました。来訪者は、興味津々と驚きの声があがり、「ラッピングの参考になった」とか「いい勉強になった」など大変好評でした。
交流会：19:00～20:00
25名程の来訪者と交流をはかりました。

この展覧会は昨年度10月に京都、1月に東京で行ったFUROSHIKI展の海外巡回の発展形の第1弾として計画しました。
目的としては、韓国で日本テキスタイルデザイン協会を少しでも知っていたくこと。そして、同じ現代の「包む布」を展示することで文化的交流が出来、韓国のテキスタイルと日本のテキスタイルの過去、現在、未来を考える場をつくり、人的交流がうまれること。スマートラッピングというエコロジーの意識を日韓で共有し、日韓に以前からある一枚の「包む布」のすばらしさを、テキスタイルクリエイターとして世界にアピールできると考えての第一歩と考えました。

日本国内の発表後の次のステップとしても、日本のお隣であり、ボジャギという「包む布」の文化を共有できる身近な韓国との交流展がふさわしいと考えての展覧会でした。

韓国からの参加作家はKim Gum-ja, Jeong Myung-hai, Na Jung-sun, Lee Kyung-eun, Lee Gyung-hee, Ryu Young-jooの6名、TDA会員の出品は、朝比奈由起子、池端禎三、石田れいこ、今井弘子、伊東良子、梅田幸男、大高亨、神沢郁子、木下幸子、北川陽子、氣谷昌美、菅原リラ、寺井洋介、奈良平宣子、野々口悟、原玲子、平岡清、平岡美子、村山福子、山岸延史、山口道夫、矢貫伶子の22名が出品いたしました。

日本のふろしきだけではなく、ボジャギとふろしきの違いについて話したり、韓国にはないふろしきの包み方、使い方のデモンストレーションを行い、大変驚かれたと同時に感心してくれたようです。とても有意義な展覧会となりました。
(大高 亨)